

あけまして おめでどうございませす

町長 徳 永 哲 雄



新年あけましておめでどうございませす。
町民の皆さまにおかれましては、ご健勝の中、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのことと心よりお喜び申し上げます。
また、旧年中は、町政運営に対し温かいご支援、ご協力を賜り、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。
昨年を振り返りますと、国内では、プロテニスプレーヤーの錦織圭選手が日本人としては初となる、全米オープンテニスでの準優勝、ワールドツアーファイナルズでの世界ベスト4を果したほか、北海道出身のスキージャーナル、レジェンド・葛西紀明選手の活躍などが目立ちました。スポーツ以外でも、青色発光ダイオード(LED)の発明、実用化に貢献した3人の日本人がノーベル物理学賞を受賞したほか、北海道新幹線の試験運行の開始など、未来へつなげる話題がありました。
本町においては、弟子屈町4日

クラブのメンバーが道青年農業者会議のプロジェクト発表で最優秀賞を受賞し、全国大会でも農林水産省経営局長賞を受賞したほか、小中学生、高校生も全道、全国の各種スポーツ大会において優秀な成績を残すなど、多方面で活躍された方が多い1年でした。
一方、基幹産業である農業については、ソバの収量が収穫期の天候不順による倒伏などで昨年を下回ったものの、小麦やバレイシヨは収穫量を伸ばしており、その他の作物もおおむね平年並みの作柄となっております。
もう一つの基幹産業である観光については、道の駅の利用者や訪日外国人の増加などにより、入り込み客数は増加傾向にあるもりの、宿泊客については減少傾向が続くなど依然厳しい状態が続いており、経営を断念せざるを得ない事業所も出ています。
昨年4月からは消費税も8%となり、景気回復の実感がなく状況ではありますが、本町といたしま

町議会 議長 八幡 豊 行



町民の皆さま、あけましておめでどうございませす。
平成27年の新春を迎えるにあたり、町議会を代表し謹んで年頭のごあいさつを申し上げます。
皆さまにおかれましては、ご家族おそろいで新年をお迎えになられたことを、心よりお喜び申し上げます。また、日頃から町議会に対する格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。
昨年を振り返りますと、消費税の引き上げや円安の進行による物価の上昇、引き続き原産の問題、世論では政権交代後、徐々に景気が回復傾向にあると報道されていますが、地方にとっては直接感じられないところがあります。政府は現状の経済状態を踏まえ、本年10月から消費税10%への引き上げを見送りました。昨年12月に実施された衆議院議員総選挙においては、与党が3分の2を超える議席を占めました。本町の選挙区である北海道第7区においては与野党が伯仲した選挙結果となりました。与党が進める政策には地域における課題が山積しており、解決の道筋が見えていないと判断されている有権者の意思の表

さて本町に目を向けますと、基幹産業の一つであります農業では、酪農は乳価上昇があったものの、依然、資材価格および燃料価格の高騰が続いており、厳しい状況にあります。畑作においては収量、バレイシヨの澱粉含有率、テンサイの糖分とも平年並みとなりましたが、ソバについては倒伏などの影響により収穫が前年比4割減と大きく落ち込み、酪農同様、生産資材などの価格高騰も含め、厳しい状況にあります。いかにコストの低減を図っていくかが、喫緊の課題となっております。加えて、TPP交渉参加などの先行き不透明な状況は続き、ますます予断を許さない現状にあります。
観光では宿泊客の減少などが続き、依然厳しい状況であります。しかしながら、訪日外国人観光客が徐々に増加傾向にあり、また、道の駅では入館者数、売り上げ共に伸びており、一昨年に引き続き多くの集客があったことが一定の成果となりました。今後もこれを維持しつつ、観光をはじめ商工業にも良い方向へと進んでいけるよう期待するものであります。
近年、地方自治体をとりまく環境は依然として厳しい状況にあります。わが町の発展のため議会としても執行機関と連携を密にし、さまざまな課題の解決に努力を重ねてまいりたいと存じますので、町民皆さまの一層のご支援、ご協力を賜りますよう、心からお願ひ申し上げます。
結びになりませんが、新たな年が皆さまにとつて、さらなる飛躍と充実の年でありませすよう、ご清祥とご多幸を、ご祈念申し上げます。年頭のごあいさつといたします。

町教育委員会 教育長 小林 俊 夫



町民の皆さま、新年あけましておめでどうございませす。平成27年の年頭にあたり、謹んで初春のお喜びを申し上げます。
昨年を振り返りますと、豪雨被害や土砂災害、御嶽山噴火、長野県北部地震など、日本各地で数々の災害が相次ぎました。東日本大地震のときにもそうでしたが、各地の懸命に復興しようとする姿に人間の素晴らしさを感じました。一方、明るいニュースもありました。特に青色発光ダイオードを開発された赤崎勇氏、天野浩氏、中村修二氏のノーベル物理学賞の受賞などは、われわれ日本人にとつて、まさに希望の光をともす、喜ばしい出来事でありませす。
本町においては、今年3月に閉校となる昭栄小学校の閉校記念式典および感謝の集いが挙行され、数多くの先輩諸氏にご参列いただきました。開校以来、南弟子屈地区の文化の中心として、地域に住む人々を結ぶ架け橋として、歴史と伝統を築き上げてこられた同校が閉校することは大変残

念ではあります。けれども昭栄の子どもたちが元気に明るく活躍してくれること、そして同校が町民の心につつまでも残ることを固く信じています。
さて、今年も教育改革の推進をはじめとして教育環境の整備など、さまざまな課題が山積しています。教育委員会といたしまして「学校、家庭、地域社会が連携し、ふるさとを創る人を育む」という本町の教育目標の具現化に向け、関係機関・団体との連携を一層強化しながら、児童生徒の「生きる力」の育成や町民の皆さまの学びの環境づくりなどに取り組んでまいります。
子どもたちが夢や希望の実現に向けて生き生きと学校生活を送ることができるよう、また町民の皆さまが生きがいと潤いのある豊かな生活を送ることができるよう努力してまいりますので、引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。
本年が皆さまにとりまして、健康で幸多き素晴らしい1年となりますことをご祈念申し上げます。年頭のごあいさつといたします。

しても、温泉を活用した新規事業の開拓や自然を生かした新たな観光メニューの創設、管内市町村とも連携した特産品やブランド商品の開発など、雇用や地域の発展につながる事業に尽力することもに、子育て世代や高齢者にとって住みよい環境を提供できるよう、さまざまな施策を実施してまいります。と考えています。
特に、昨年導入させていただいた「保育園・幼稚園就園支援事業」については、子育て世代の皆さまから、負担軽減につながるなどと歓迎の声も伺っています。来年度に制度改正される保育所の開所時間延長も併せ、子どもたちの保育環境と保護者支援の向上に努めてまいります。高齢者福祉についても、医療機関や介護施設を事業者の皆さまとも連携しながら積極的に充実させ、安心して暮らせるまちづくりを目指してまいります。
本年は、昨年着工した養護老人ホーム「倅和園」と特別養護老人ホーム「摩周」への移転も間近に控えています。また、6年ほど前から手掛けていた弟子屈町産ワインについても、昨年はブドウを約130^キ収穫することができ、現在、醸造中です。年内には皆さまにお披露目する機会があると思

さらには、快適な住環境を目指して整備を進めている、泉ヶ丘団地やみはらし台の公営住宅のほか、水郷公園の改修事業、魅力ある弟子屈高校づくりの支援についても強化してまいります。
新しいこの1年が弟子屈町にとってさらに飛躍する年となよう、町民皆さまのお力もお借りしながら、山積する課題や課題を解決し、町政運営に励んでまいります。
町財政も引き続き厳しい状況ですが、一人一人が知恵を出し合い、おのおのができることを考え、さまざまな工夫やアイデアにより、持続可能なまちづくりにつなげてまいります。人口減少の中、輝かしい歴史と伝統を持つ昭栄小学校が、3月をもって閉校することになりました。このような中でこそ、地域住民、企業、行政が一丸となり、町の最上位計画である弟子屈町総合計画の将来像でもある「水と森と人が共に輝き、活力あふれる自立したまち」を目標に、まい進してまいります。結びになりますが、今年1年が本町にとりまして素晴らしい年になりますよう、また、町民皆さまのご健康とご多幸をご祈念申し上げます。

年頭にあたって

初春を迎えて